絆を育む学校づくり推進事業

― ひらかれて　むすばれていく子どもたちの育成 ―

津島市立南小学校

１実践のねらい

(1)　現代の子どもの様子をみると、学年をこえて交流したり、世代をこえて活動したりする機会がないと思われる。そこで学校が中心となりそのような機会を作り出すことによって、人との関わりと地域との関わり方を学び、そして校外においても積極的に地域の活動に参加できる児童を育てていきたい。

(2)　地域の異世代の人たちと子どもたちが話し合う場をもち、子どもたちが地域の人たちと積極的に関わることにより、地域に根差した学校づくりを進めていく。それによって、子どもたちが今以上に地域に関心をもち、より地域の将来に貢献できるように育てていきたい。

２　実践の内容

(1) 南小区コミュニティと協力して

ア　世代間交流会議

今年度から、児童会もコミュニティ会議に参加して、各行事にどうすれば三世代が絆を深めることができるかを考えた。また、このように児童が次世代のコミュニティの運営に携わることで、よりこの地域に貢献できる人物として育てることができた。

【世代間交流会議】

イ　南校区ふれあい運動会　　9月 21 日

本校では、小学校の運動会と南校区市民体育祭を合同で「南校区ふれあい運動会」と称して行っている。種目については、半分以上が学年間・親子・地域の触れ合いを大切にした競技になっている。三世代触れ合い競技は、せんたくほしリレーで、児童と保護者・高齢者がせんたくものを干したり、取り入れたりしながらつないでいくリレーである。幼児競技は、就学前の幼児によるかけっこである。本年度は、200 名を超える参加があった。一般競技の玉入れも、保護者だけでなく中学生や高齢者も参加して 150 名で競技を行った。運営についても、地域の嘱託員さんに協力いただき町内から２～３名の体育委員を選出して準備・片づけや当日のそれぞれの担当を行った。当日の役割としては、スターター・参加賞渡し・招集・警備などがあり、あらゆるところで活躍していた。学校と地域が一緒に活動することで、職員と地域の方々との距離も縮まり、お互いが協力して児童を育成するといったつながりも深まった。

【三世代競技】

ウ　ウォーキング＆フェスティバル　　11 月 24 日

昨年度はウォーキングだけを行ったが、参加者 80 名ではほとんどが高齢者という状況であった。それでは地域の触れ合いにはならないということで、児童からの案もあってフェスティバルも合わせて行うことにした。参加者も、300 名に増えたいへん盛況であった。ウォーキングでは、小さな子どもから高齢者まで幅ひろい年代の方５名ぐらいが１グループになっていろいろな話をしながら３㎞ の道を歩いた。各チェックポイントで、観光協会の方からの問題「このお寺に祭ってあるものは何」や消防団の方から「津島市にはいくつの消防団がある」などの問題が出され、正解するとポイントがもら

えた。遊びながら地域のことが学習でき好評であった。今年は、フェスティバルも一緒に行った。内容としては、小学校の金管バンドによる演奏、地域のコーラス隊による合唱、高校協力による野菜の即売、社会福祉協議会によるポップコーンの販売、商店の協力による串カツ、ソーセージコロッケの販売、放課後子ども教室によるカレーの販売、体育館の中では放課後子ども教室・老人クラブによるボール投げ、射的、輪投げ、風船つり、市議会議員による風船アートなどを行いたいへん盛り上がっていた。南小区コミュニティを立ち上げて２年目ということもあってまだまだ軌道に乗っていないところがあるが、このように積極的に学校や児童が関わることによって、保護者・住民の意識も変わり絆が生まれてきている。

【ウォーキング】

(2)　ＰＴＡ・安全協会・老人ホームと協力して

ア　交通安全パレード　　9月 27 日

（金管バンド・バトンクラブ・生活委員）

警察や安全協会の協力の下、生活委員が交通安全の標語を先頭で持ち、ＰＴＡが啓発の風船、ティッシュを配り、バトンクラブと金管バンドが演奏しながら校区をパレードした。地域の人から沿道で「ごくろうさん」「ありがとう」「がんばってね」と声をかけられていた。約１時間半ぐらいのパレードであったが、児童も地域に貢献できてとても満足していた。

【交通安全パレード】

イ　招待給食（全学年・給食委員）　　11 月 27 日

給食委員会が企画して、老人ホームから 16 名の方を各クラスに招待して一緒に給食を食べた。それぞれのクラスで催しを考え発表した。あるクラスでは、こま回しをしたり、合唱をしたりした。プレゼントも手作りをして渡し、たいへん気にいっていただけたようである。「本当に楽しい会食でした。また来たいです」と名残惜しそうに帰られたのが印象的だった。

【招待給食】

３　実践の成果や課題

絆を育む学校づくりとして１年間取り組んできた。その中で１番感じたことは、積極的に学校が関わることの大切さである。学校は「絆を体験できるだけ場面を多くつくる」「絆をつくる方法を教える」「絆を意識して生活できるような環境を整える」ことが重要である。本校においては、それぞれの学年が年間のカリキュラムに入れて行うことによって、毎年これだけの実践を行うことができるという見通しをもつことができた。長年続けてきたため、老人ホーム、老人クラブ、幼稚園、安全協会、観光協会など各団体とのつながりも深くなり、協力体制ができている。

「学校の活動を通して地域との絆を深めることができましたか」という問いに、ほとんどの児童がそう思うと答え、中でも高齢者との触れ合い活動が印象的であったようだ。これからの課題として、これらの活動がマンネリ化しないように目的意識をしっかりもつとともに、少しずつ工夫していかなくてはならない点にある。運動会の三世代ふれあい競技の種目変更やコミュニティのフェスティバルにおけるより一層の内容の充実など学校と地域が協力し合いながら進めていきたい。